**日英ビジネス翻訳トライアル課題文**

**作業上のルール：**

・翻訳の際は日本語原文を英語訳文で上書きしていただけますようお願いします

・翻訳対象は「実際のビジネスでは、やるべき仕事の量が」から「自分自身を振り返ると、あえて明示しておきたいと感じるからである。」までとなります

・提出していただく訳文はすべて英数半角としていただけますようお願いします

・ファイル名は“JE\_1\_business\_20YYMMDD\_お名前.docx”としてください

・固有名詞の確認の際に使用した参照先のURLはMSWordのコメント機能で申し送りしてください

・その他翻訳の際の解釈の仕方など申し送り事項がありましたら日本語でコメントを残し申し送りしてください

**【課題文】**

================================================

ファシリテーションとの出合い

私がファシリテーションを知ったのは、一二年ほど前、GEにおいてワークアウトをやり、また組織変革のファシリテーター役を担ったときだった。ワークアウトは、GEにおいて二〇年近く前に発明されたもので、小集団活動を通じて仕事の効率化を図るというものである。当時GEの会長であったジャック・ウェルチが、一九九〇年頃から強力に推進し、おそらく全社で数万回というワークアウト（この言葉は、「ワークをアウトする」、つまりなくすという意味から名づけられたと言われる）が実施されたと推定される。

**-----翻訳対象ここから-----**

実際のビジネスでは、やるべき仕事の量が、実際にできる量を超えているというのが日常である。しかもやるべき量は増加する一方だが、人員は減っていく。そこで、関連のある他部署と一緒になってプロセスマッピングし、プロセス上のボトルネックを解消する。業務の棚卸しをしてパレート分析し、優先順位の低いものは、思い切ってやめていく（ワークをアウトする）。日本では生産現場で、このような小集団活動が行なわれ、カイゼンという名で世界的に知られているが、それをオフィスでも行なうのがワークアウトである。

その狙いと効果を、ＧＥの研修センター、クリントンビル（ジョン・Ｆ・ウェルチ・リーダーシップ開発研究所と改称されている）のトップで、ＣＬＯ（最高学習責任者）をしていたスティーブ・カーらは、以下の五点に要約している。

１ ひたすら「ストレッチ」する

２ 「システムシンキング」を育てる

３ 既成概念にとらわれない

４ 水平思考を促す本当の権限委譲と「説明責任」を生み出す

５ 短サイクルでの変革とすばやい意思決定を手にする

私は、これに次の二点を加えておきたい。

６ 組織の壁を超える意識を醸成する

７ 既成のルールや完了主義に縛られない精神を育てる

「組織の壁を超える」は「システムシンキング」に、「官僚主義に縛られない」は「既成概念にとらわれない」に通じるが、あえて加える理由は、自分自身を振り返ると、あえて明示しておきたいと感じるからである。

**-----翻訳対象ここまで-----**

================================================